



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3371 号 2016.11.28 発行

障害者差別解消法施行半年 相談窓口設置 3割届かず 東京新聞 2016年11月28日

全国の市区町村のうち、四月に施行された障害者差別解消法が求めた障害者の相談窓口を設置した自治体は、三割に満たないことが明らかになった。法施行後も差別的な対応が問題になっている中で、多くの障害者にとって相談できる窓口がない状況が続いている。

窓口の名称は「障害者差別解消支援地域協議会」。障害者団体、家族会、医師、学識経験者らで構成し、自治体が事務を担う。設置は義務ではないが、障害者の相談に応じるほか、法律の啓発を進める。

法律を所管する内閣府が施行半年後の十月一日現在でまとめた結果、全国千七百四十一市区町村のうち、協議会を設置したのは五百七だった。来年四月までの新たな設置予定も調べたところ、二百十五にとどまった。施行一年を迎えた段階でも、四割までしか設置が進まないことになる。

障害者が不利益を受ける問題は法施行後も続き、五月に筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の男性が国会に参考人として招かれながら、障害を理由に一転して出席を拒まれた。八月には埼玉県入間市共催の大相撲地方巡業で、車いす観戦を断られたことが明らかになった。国会や入間市は批判を受け、後になって方針を転換している。

十三の障害者団体でつくる「日本障害フォーラム」は「障害者の要望を実現するためにも身近な相談窓口が必要だ。協議会には法律の趣旨を広める役割もある。設置する自治体が増えてほしい」と要望。内閣府の担当者は「設置が十分ではないので、自治体に法律の趣旨を説明していく」と話している。（城島建治）

◆世田谷区では相談49件対応 積極的な取り組み

東京都世田谷区は、障害者差別解消法施行の九年前から、障害者差別解消支援地域協議会に相当する「区自立支援協議会」を設置し、関係機関と連携して差別解消に取り組んできた。

法施行後は四十九人の区民から相談を受けた。「車いすでレストランに行ったら、段差で入れなかったのに対応してくれなかった」「選挙の投票所の出口に段差スロープがなかった」など。レストランには法の趣旨を説明し、車いすに対応してもらった。投票所ではスロープ設置を徹底した。

協議会のメンバーは障害者団体、家族会、弁護士、障害者福祉の事業者ら約四十人。地域協議会より幅広い役割を果たしているとして、名称を変えていない。

東京都世田谷区の対応

障害者差別解消法施行後、
49人が相談



障害者

専門の相談員が対応

レストランなどに法律の趣旨を説明して、問題解決

報告

自立支援協議会

同じ問題が起きないように対応を協議。事例を公表して啓発

神奈川) 障害者参加型のパラ競技体験会 県、来月に開催 朝日新聞 2016年11月28日

県は来月、障害者参加型のパラリンピック競技体験会を開く。今年度始めた「パラリンピアン育成事業」の一環。2020年東京パラリンピック競技大会で県内ゆかりの選手を多く出場させたい狙いがある。

「パラスポーツトライアル」と題し、今夏のリオデジャネイロ・パラリンピック大会に参加したアスリートなどが、競技未体験の障害者でも直接指導する。障害者に限った行事は県内初。

12月10日は主に肢体不自由者と知的障害者を対象に、厚木市七沢の県総合リハビリテーションセンターで午後1時からバドミントンと卓球、アーチェリー、同2時半から車いすバスケットボール。17日は主に視覚障害者を対象に、平塚市追分の県立平塚盲学校で同1時から柔道とブラインドサッカー。参加無料で事前申し込み不要。見学自由。問い合わせは県スポーツ課障害者スポーツグループ(045・285・0798)。(岩堀滋)

障害者らの書 個性光る100点展示 三木

神戸新聞 2016年11月28日

大筆のパフォーマンスに取り組む「きらきら書道」の参加者ら＝三木市上の丸町



文字を自由に表現した作品が並ぶ＝三木市上の丸町
障害者らが創作した書の作品展「書を見る

喜び創る楽しさ」が27日、兵庫県三木市上の丸町の堀光美術館で始まった。柔軟な発想で文字を表現した約100点を展示している。12月4日まで。

障害者の生きがいや交流の場づくりとして同館が企画。ボランティア団体「人権書道きらきら」が月1回、市民活動センター(同市末広1)で開く「きらきら書道」の参加者ら約40人が出品した。

独特の筆記で文字の形の面白さを際立たせた「好日」、色とりどりの手形や足形で描いた「希望」、濃淡ある筆遣いで一気に書き上げた「夢」など、個性が光る作品が並ぶ。

この日は大筆を使ったパフォーマンスもあり、来場者も挑戦。就職活動中という神戸特別支援学校高等部3年の女子生徒(18)は「就職」と力強く記し、「筆が重くて大変だったけれど気持ちよく書けた」と満足そうだった。

入場無料。月曜休館。午前10時～午後5時(最終日は午後3時まで)。同館TEL0794・82・9945(後藤亮平)

「障害者への差別意識まだ存在」 岡山で手をつなぐ育成会県大会

山陽新聞 2016年11月27日

知的障害者の保護者らでつくる「手をつなぐ育成会」の県大会が27日、岡山市内2カ所で開かれた。相模原市の知的障害者施設で入所者19人が刺殺された事件を受け、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現に向けて決意を新たにしました。

全国手をつなぐ育成会連合会(大津市)の久保厚子会長(65)が「共に生きる」と題

して講演。事件後、同連合会に障害者の存在を否定するようなメールが多数寄せられたことを説明し「まだまだ差別意識が社会に存在することを痛感させられた」と述べた。

講演で共生社会の実現などを訴える久保会長

一方、事件を受けて全国の障害者施設が警備態勢を強化している現状に「安全を重視し過ぎて社会と距離を置いてしまうと、障害者が地域から隔絶された存在になってしまう」と指摘。滋賀県で重症心身障害児の教育に尽力した故・糸賀一雄氏が残した「この子らを世の光に」という言葉を挙げ、「多様性を認め合う意識を社会に根付かせていこう」と呼び掛けた。



県大会には障害者や保護者、学校関係者ら約600人が参加。事業所への勤務状況が優秀な障害者らの表彰、障害児の就学支援などをテーマにした分科会もあった。

大阪) 指2本でつづった障害・恋 脳性まひの女性が自伝 宮崎園子



朝日新聞 2016年11月28日

パソコンに向かう福本千夏さん=吹田市

障害者の私がなんで健常者の夫においていかれなあかんの？ 45歳で夫に先立たれ、専業主婦を“廃業”した脳性まひの女性が、自伝を出版した。わずかに動く2本の指で、喜びと悲しみをつづった。

動物界ヒト科。手足の動きとハスキー漏れボイスが独特。現在、人間修行中

「千夏(ちなつ)ちゃんが行く」を出版した吹田市の福本千夏さん(54)。左手親指と右手人さし指で

キーボードを打つ。障害者がテーマの雑誌にコラムを書いたが本を出すのは初めてだ。

四五歳になっても座らない首は、ちぎれるくらい痛い

2008年、夫はがんで亡くなった。49歳だった。夫の死後に通い始めた鍼灸(しんきゅう)整骨院の若い鍼灸師との会話を軸に、家族や友人との触れ合いをつづる。

悲しみは色あせるといいますが、私には信じられない。逆に、悲しみには終わりが無いことを、思い知る

夫との出会いは22歳の時。友人の追悼イベントの帰り道、さりげなく荷物を持ち、手を引いてくれた。家族の反対を押し切って1988年に結婚。翌年、息子を授かった。



石川) ボッチャ日本選手権 小松の田中選手が準優勝

朝日新聞 2016年11月28日

金沢市稚日野町のいしかわ総合スポーツセンターで開かれた障害者スポーツ・ボッチャの日本選手権(日本ボッチャ協会主催、朝日新聞社など後援)は最終日の27日、決勝トーナメントがあった。県勢では小松市の田中恵子選手(県ボッチャ協会)がBC3クラスで準優勝を果たした。

リオパラリンピックの正式種目。障害の度合いに応じて、六つのクラスに分かれて熱戦

を繰り広げた。準々決勝、準決勝を勝ち進んだ田中選手は決勝で高阪大喜選手（あいちボッチャ協会）と対戦し、1－8で敗れた。試合後、田中選手は「みんなのおかげで、うれしい。決勝は疲れがあったかもしれない。東京パラリンピックに出たいと思います」と話した。



BC3クラスの決勝で対戦する車いすの田中恵子選手（右）と高阪大喜選手＝金沢市稚日野町のいしかわ総合スポーツセンター

そのほかのクラスの優勝者は次のみなさん。

BC1＝藤井友里子選手（富山ボッチャクラブ）

▽BC2＝広瀬隆喜選手（市原ボッチャクラブ）▽BC4＝藤井金太朗選手（市原ボッチャクラブ）▽オープン座位＝安井達哉選手（あいちボッチャ協会）▽オープン立位＝皆森俊夫選手（サウスフィールドクルー）（伊藤稔）



サッカー専用施設、大塩に完成 姫路のNPO運営 神戸新聞 2016年11月28日

「スポーツクラブ エストレラ」が整備したサッカー専用グラウンド＝姫路市大塩町



兵庫県姫路市を拠点にサッカーチームを運営するNPO法人「スポーツクラブ エストレラ」は27日、同市大塩町に整備したサッカー専用グラウンド「エストパーク」の竣工（しゅんこう）式を同町の大的市民センターで行った。良質の人工芝とナイター設備を備え、所属チーム以外にも開放して地域に根ざした施設運営を目指す。

同グラウンドは山陽電鉄大塩駅南側の民有地に整備。総面積は約9900平方メートル

、ピッチは縦105メートル、横68メートルの本格仕様。総事業費1・5億円はサッカーくじ「toto」の助成金と自己資金で工面した。

同法人は2001年に設立。社会人チームの「エストレラ姫路FC」やジュニアユースのほか、知的障害者チームの「パワーズ」なども立ち上げ、スポーツに打ち込める環境を提供している。

竣工式では、100人以上の地元関係者らが集まり、テープカットで完成を祝った。同法人の樽本直記理事長（66）は「長年の夢がかなった。ここから世界を目指す選手を輩出し、障害者スポーツの聖地にもしたい」と意気込みを語った。

式典後、グラウンドではこけら落としとなるブラインドサッカーの試合やサッカー教室が開かれた。（金 旻革）

「特別支援校の事故防げ」 久留米誤嚥訴訟、原告支える会発足【福岡県】

西日本新聞 2016年11月28日

2012年に久留米市の久留米特別支援学校で起きた誤嚥（ごえん）事故をめぐる、同市などを福岡地裁久留米支部に提訴している少年（18）や家族を支える会「ノーティボーイズ」が27日、発足した。支援者ら35人が市内に集まり、こうした事故の再発防止

を訴えた。

少年は脳性まひがあり、同校中学部に通っていた12年9月、給食の介助を受けていた際、食事を喉に詰まらせて心肺停止となった。一命を取り留めたものの視覚や聴覚、コミュニケーション能力などを失った。訴訟では、同市に対して約1億5千万円の賠償を、学校事故の障害見舞金を支給する日本スポーツ振興センターには3770万円の見舞金支払いを求めている。



集会で裁判の説明をする八尋光秀弁護士（奥）

集会は、学校の問題でわが子を亡くした遺族などが呼び掛け、実現した。少年の母親（51）は「起きたことを責めるのではなく、同じ事が二度と起きないように対策を求めたい」と決意を述べ、裁判の経緯などを報告。特別支援学校の元教員や子どもに障害がある親も参加し、会場からは「保護者が学校に事故防止の学習や研修を求めていくべきだ」などの意見も出た。

原告代理人の八尋光秀弁護士は「誤嚥事故はどの特別支援学校でも起きる可能性がある」と指摘した上で

「助かった命が、現場に事故回避の議論を求めるといふ、素晴らしい意味を持っていることを知ってもらいたい」と語った。

婦人保護施設の利用低迷 入所者1人以下が10県 山陽新聞 2016年11月28日



虐待や貧困に陥った女性を支援する「婦人保護施設」の利用が各地で低迷、茨城など10県では2015年度の入所者数が0~1人だったことが、28日までの共同通信の調査で分かった。施設でドメスティックバイオレンス（DV）被害者の一時保護が増えた影響などで、利用条件が厳しくなったためとみられており、支援団体関係者らは改善を求めている。

婦人保護施設は、規則正しい生活や就労訓練などを通じて自立に必要な生活スキルを学ぶ場で、39都道府県に計48施設あり、大半は県などが設置している。軽度の精神・知的障害がある入所者も多く、定員は5人から30人前後が中心。

県引きこもり支援センター 開設1ヵ月余で相談延べ110件

琉球新報 2016年11月28日

県が今年10月、南風原町の県立総合精神保健福祉センター（宮川治所長）内に開設した「ひきこもり専門支援センター」への相談件数は開設から1ヵ月余の11日現在で延べ110件となり、これまでに37人が相談支援などを受けている。同センターは「本人だけでなく、家族でもいいので気軽に相談してほしい」と利用を呼び掛けている。

県は引きこもりの背景に精神疾患や発達障害があるケースを想定し、支援センターを総合精神保健福祉センター内に設置した。相談対応でそれらが確認されない場合は、適切な機関を紹介する。

支援センターでは看護師や保健師の資格を持つ相談支援専門員3人を配置し、電話による相談対応や自宅訪問で支援を行う。11日現在の相談件数の内訳は「本人」34件、「家族」43件、「関係機関」32件、「知人・友人」1件だった。

相談支援を受けている引きこもり当事者は男性23人、女性12人、性別不明2人で、

年代別では10代10人、20代5人、30代8人、40代5人、50代5人、年齢不明4人。当事者のうち約3分の1に当たる12人が1～5年引きこもっており、最長で17年という。

宮川所長は「まずは本人や家族とつながり、安心してもらうことが大事」と述べ、気軽に相談するよう呼び掛けた。

同センターへの相談は無料で、月曜から金曜日の午前10時～正午、午後1～4時に受け付けている。相談や来所予約は（電話）098（888）1455。

佐賀西ロータリークラブ、整肢学園で係留飛行

佐賀新聞 2016年11月27日



バルーン係留飛行の搭乗体験で空からの眺めを満喫し、笑顔を見せる入所者＝佐賀市金立町の佐賀整肢学園こども発達医療センター駐車場

■気球体験、空から笑顔

国際ロータリー第2740地区佐賀西ロータリークラブ（平野信一郎会長）が、佐賀市金立町の佐賀整肢学園こども発達医療センターでバルーン係留飛行の搭乗体験を開いた。今年、西九州大学の生徒が初めてサポートに入り、7歳～60代の入所者約60人が空からの眺めを楽しんだ。

入所者の多くが車いすを必要とする重度の重複障害で介助が必要のため、バルーンフェスタに見学へ行くのは難しいという。同クラブはバルーン楽しさを伝えようと、2008年から体験会に取り組んでいる。

入所者は高さ20メートル、横幅10メートルの巨大なバルーンに車いすごと乗り込んだ。地上から15メートル上空にふわりと浮かび、壮大な展望が広がると介助者とともに笑顔を見せた。

初めて搭乗した金立特別支援学校3年の藤森諒君（9）は「高くてみんなが小さく見えた。楽しく、少しどきどきした。バルーンフェスタにも行ってみたい」と話していた。

メチル水銀 マグロ過食に注意 妊婦から胎児へ影響

毎日新聞 2016年11月28日

マグロ＝名古屋市熱田区の名古屋市中央卸売市場で2016年1月、大竹禎之撮影

マグロやメカジキなどメチル水銀を比較的多く含む魚介類を妊婦が食べ過ぎると、生まれた子の運動機能や知能の発達に悪影響が出るリスクが増すことが、東北大チームの疫学調査で分かった。メチル水銀は水俣病の原因物質だが、一般的な食用に問題のない低濃度の汚染でも胎児の発達に影響する可能性があることが明らかになるのは、日本人対象の調査では初めて。



2002年から、魚をよく食べていると考えられる東北地方沿岸の母子約800組を継続的に調査。母親の出産時の毛髪に含まれるメチル水銀濃度を測定し、子に対しては1歳半と3歳半の時点で国際的によく用いられる検査で運動機能や知能の発達を調べ、両者の関係を分析した。

毛髪のメチル水銀濃度は低い人が1ppm以下だったのに対し、高い人は10ppmを超えていた。世界保健機関などは、水俣病のような神経障害を引き起こす下限値を50ppmとしている。

濃度が最高レベルの人たちの子は最低レベルに比べ、1歳半時点で実施した「ベイリー

検査」という運動機能の発達の指標の点数が約5%低かった。乳幼児期の運動機能は将来の知能発達と関連があるとされる。3歳半時点の知能指数検査では男児のみ約10%の差があった。海外の研究で、男児の方が影響を受けやすいことが知られている。

国は05年、海外の研究を基に、妊婦に対しメチル水銀の1週間当たりの摂取許容量を体重1キロ当たり100万分の2グラムと決めた。厚生労働省はこれに基づき、クロマグロの摂取は週80グラム未満とするなどの目安を示している。今回の調査では食生活も尋ねており、約2割がこれを超えていたと考えられるという。

研究チームの仲井邦彦・東北大教授（発達環境医学）は「目安を守れば、影響は心配しなくてよいと考えられる。魚には貴重な栄養も含まれており、妊婦が魚を断つことは好ましくない。食物連鎖の上位にいるマグロなどを避けサンマなどを食べるなど、魚種を選ぶことが大切だ」と話す。【渡辺諒】

厚生労働省が定めた妊婦の摂取目安

※週80グラム未満

クロマグロ、メバチマグロ、メカジキ、キンメダイ、ツチクジラなど

※週160グラム未満

キダイ、ユメカサゴ、ミナミマグロ、クロムツ、マカジキなど

※刺し身なら1人前、切り身なら1切れが約80グラム

個人、環境要因で差

東北大チームの研究で比較的低濃度のメチル水銀でも妊婦が摂取した場合、胎児の発達に影響するリスクがあることが明らかになったが、影響の受けやすさには個人差があり、多く摂取した母親の子が必ずしも大きな影響を受けるとは限らない。今回の研究結果は、個人レベルではなく、集団として将来知的障害と判断される子の割合が増えることを意味する。

例えば1000人の集団の場合、メチル水銀の影響がなくても、知的障害と判断される子が23人程度生まれることが経験的に分かっている。メチル水銀を多く摂取した結果、ベイリー検査の点数が約5%下がることは、これが約2倍の48人程度になるリスクが生じることに相当するという。

子どもの発達には遺伝や教育など、さまざまな環境要因も大きく影響する。また、低濃度のメチル水銀と子の脳の発達の関係は未解明のことが多い。個々の子に知的障害が疑われる場合、メチル水銀が影響したかどうかは判別できないのが現状だ。【渡辺諒】

【ことば】メチル水銀

水銀は地殻や土壌に含まれ、火山噴火や石炭の燃焼、金の採掘などに伴って排出される。これが水中や土壌中で微生物の働きなどによって化学変化し、メチル水銀が生成される。海水にも含まれ、食物連鎖によって徐々に濃縮し、上位に位置するクロマグロなどで濃度が高くなる。水俣病は、工場排水中の高濃度のメチル水銀が原因となった。

鳥取) 藤田さんに特別賞 高校生福祉文化エッセイコン 横山翼

朝日新聞 2016年11月28日

審査員特別賞を受賞した藤田実優さん

今年で14回目の「高校生福祉文化賞 エッセイコンテスト」(日本福祉大学、朝日新聞社主催)で、県立鳥取湖陵高校3年藤田実優(みゆ)さんの作品が「ひと・まち・暮らしのなかで」部門で審査員特別賞を受賞した。「1枚の絵のように浮かんでくる描写力が、この作品の魅力を高めています」などと評価された。今回は4部門に全国各地から計8592通の応募があった。

藤田さんの作品は「たった一人のお客さん」。高校2年の夏休み、自宅でピアノを弾いていると足をとめて聴いてくれた散歩中の「おばあちゃん」とのこをつづった。



弾き終わるまで目を閉じて笑顔で聴いてくれる。それがとてもうれしくて、たった1人のお客さんに届くように発表会に臨むような気分で弾いたこと、夏休み終盤になって思い切って声をかけ、「いつもありがとうね」と感謝された時の喜びなどを書いた。

サンタに扮するチャリティーラン

ytv ニュース 2016年11月28日

サンタクロースの衣装で走るチャリティーイベント、大阪グレートサンタランが27日、大阪城公園で行われ、京都大学IPS細胞研究所所長の山中伸弥教授がスターターを務めた。参加費の一部で病気と闘う子どもたちへクリスマスプレゼントが贈られる。

社説：家庭教育 国が介入すべきでない

信濃毎日新聞 2016年11月28日

私的な領域である家庭に公権力が踏み込むことは思想統制につながりかねない危うさがある。子育てのあり方に国が枠をはめる法制定には賛成できない。

自民党が来年の通常国会に提出を検討している「家庭教育支援法案」である。保護者が子どもに、国家や社会の形成者として必要な資質を備えさせることを基本理念として掲げた。

国は支援の基本方針を定め、自治体とともに環境を整備する。住民は、施策に協力するよう努めることが「責務」とされている。

政府の教育再生実行会議も家庭教育の役割や支援策について議論を始めた。呼応して動きが進む背景には、「家庭のあるべき姿」を規範として定めようとする安倍晋三首相の一貫した考えがあると見るべきだろう。

第1次政権下の2006年に改定された教育基本法は「愛国心」を目標の一つに据えるとともに、家庭教育の条項を新設。保護者が子どもの教育に第一義的責任を負うことを明記した。

翌年の教育再生会議では、親の自覚を求める提言を出そうとしたが、断念している。「子守歌を歌い、おっぱいをあげ、赤ちゃんの瞳をのぞいて」一。押しつけがましい内容に反発が広がった。

野党だった12年には、自身が会長を務めた「親学推進議員連盟」が発足し、法制定を目指した。伝統的な子育てで発達障害を防げるといった「親学」の考え方には、発達障害の当事者や支援者から強い抗議が起きた。

家庭に介入する法制定は改憲の地固めになり得る。自民党の改憲草案は「家族は、互いに助け合わなければならない」との規定を憲法24条に加えている。

家族のあり方は多様で、抱える事情も異なる。親子といえども別の人格を持つ個人である。憲法で「家族はこうあるべきだ」と定めることは、多様性を頭ごなしに否定し、人権保障の根幹にある個人の尊重を揺るがしかねない。

同じように、子どもをどう育てるかは、国が決めることでも、法で一律に示すべきことでもない。個々人の考えに踏み込んで価値観を強要すれば、思想・信条の自由を損なう。

本来、国がすべき支援はほかにある。家庭が困窮し、学力が身に付かない子や進学を諦める子は少なくない。子育てに悩む親が相談できる場も限られる。切実な声に向き合い、社会が子どもと親をどう支えるか。そのための施策にこそ力を注がなくてはならない。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

